

## 1 カプセル

### 2 基原以下の項を次のように改める.

3 本品はカプセル基剤として、「ゼラチン」を用いて製し、  
4 一端を閉じた交互に重ね合わせることができる一対の円筒体  
5 である。

6 **製法** 本品は「ゼラチン」に水を加え、加温して溶かし、必要  
7 ならば「グリセリン」又は「D-ソルビトール」、「マクロ  
8 ゴール4000」、乳化剤、分散剤、保存剤、着色剤などを加  
9 え、粘稠な液とし、温時成形して製する。

10 本品は必要に応じて滑沢剤を塗布することができる。

11 **溶解性及び液性** 本品1個(1対)を重ね合わせずに100 mLの三  
12 角フラスコに入れ、水50 mLを加え、 $37\pm 2$  °Cに保ちながら  
13 しばしば振り動かす。この試験を5回行うとき、いずれも10  
14 分以内に溶ける。また、これらの液はいずれもおいがなく、  
15 中性又は弱酸性を呈する。

16 **乾燥減量** (2.41) 13~16 % (1 g, 105 °C, 2時間)。

17 **微生物限度** (4.05) 本品1 g当たり、総好気性微生物数の許容  
18 基準は $10^3$  CFU、総真菌数の許容基準は $10^2$  CFUである。

19 **貯法** 容器 密閉容器。

20